

## 国保料は引き下げられる

### 今年の国保料、1.4億円「取り過ぎ」になる

9月議会一般質問で、私は今年度の国保料収入が、当初予算より増える見通しについて質問しました。市の当初予算での収入額は、県への納付金50億円から逆算した37.5億円としていましたが、7月に行なった本算定では1.8億円増の39.3億円、年度末の予測値でも1.4億円増の38.9億円となりました。これは3月議会で私が計算した金額どおりで、私は当初予算が「余裕が隠された予算」だったと指摘し、余裕分＝取り過ぎ分は、本年度納付する市民に返すべきだ、と求めました。

平成30年度国民健康保険料算定の比較

	4月当初予算	7月算定額	年度末予測額
保険料収納見込額	37.5億円	39.3億円	38.0億円
当初予算との比較	----	+1.8億円	+1.4億円

### 基金残高は10億円を超える、市民に還元すべき

また私は、H29年度国保会計の決算で8.4億円の黒字が確定し、H30年度末の支払準備基金残高は9.7億円にもなる。これに本年度の国保料「取り過ぎ」分を加えれば、基金は10億円を超える、と指摘しました。この黒字や基金残高は、H28年に平均17%も引き上げた国保料の積み上げであり、市民に還元すべきものであると主張しました。

国民健康保険会計の年度別黒字・基金残高

	H28年度	H29年度	H30年度
決算黒字額	3.2億円	8.4億円	?
基金残高	4.2億円	5.7億円	9.7億円
合計	7.4億円	14.1億円	10億円+

(H29年度黒字から、翌年度に3億円を精算・国へ返還予定)

# 子どもにかかる保険料「均等割」 1.1億円で無くすことが可能

健康福祉部は、H27年度末の赤字補てん借入金の返済がある、次年度の県への納付金が高くなった時の財源として確保する必要がある、などの理由をあげて保険料引き下げは難しいと答弁しました。

私は、借入金（3.7億円）は過去の赤字補てんであり、後年度の加入者に負担させず、一般財源を充てるべきだ。来年の納付金が分からないと言って過大なため込みをするよりも、少しでも市民の負担を減らす努力を、と求めました。

例えば3月議会で私が提案した、子どもにもかかる保険料「均等割」（1人当たり40,800円）を無くすための必要額は(18才以下全員)1.1億円、基金の一部活用で十分できます。私は「国保財政の健全な運営」を言うよりも、市民の「健全な暮らし」を守るのが行政の責任だと、検討を求めました。

## 築36年の市営プール、すすむ老朽化

### 割れたタイル、サビた階段など危険な状態



石垣池公園の市営プールの老朽化対策についても質問しました。市営プールは1982年の開設から36年、設備のあちこちで老朽化・劣化がすすんでいます。現場の写真を提示しながら、危険な箇所を具体的に指摘し、改善を求めました。プールサイドのタイルが割れていて、はだして歩くと危険、幼児用滑り台の鉄製の階段のサビがひどく、子どもの足が当たればケガする、更衣室の床の樹脂製の床も劣化して割れている。どれもシートやテープで覆ってあるだけで、補修はされていません。



また、プールの底や壁面に黒い藻が発生し、職員が除去に努めているが取りきれない状態であるが、水の循環ろ過装置が開設以来36年間更新されず、機能が低下していることが問題ではないかと、設備の改修を求めました。

## 来年のシーズン前に必要な修繕・点検を行なう

プールを管理する文化スポーツ部は、利用者の安全を最優先に考え、必要な修繕を実施する、循環ろ過装置については、可能な限り早い時期に点検を実施し、修繕など対応してプール営業に支障のないようにしたい、と答弁しました。

調査のため市営プールを訪ねて、現場の職員の方に話を聞いた帰りに、となりの野球場をふと見ると、ナイター照明の大きな柱が、サビで茶色くなっているのが見えました。同じ時期にできた施設なら、同じように老朽化していくのでしょうか。これもいつ補修するのか、計画は立つのか？市の公共施設管理方針の全体像を早急に示すべきです。



プールの水の循環ろ過装置

## 市の借金は半分に減っているのに、借金総額が減らない？「臨時財政対策債」の怪

昨年度の一般会計決算の審議で、「臨時財債」について質疑しました。市財政が厳しいと言われ続け、歳出削減がすすめられてきましたが、その効果もあって、鈴鹿市の長期借入金の中の「普通債」＝純粹の鈴鹿市の借金は、平成20年度の313億円から、平成29年度の147億円へと半分以下に減りました。

しかし一方で、「臨時財政対策債」が163億円から297億円へと1.8倍になって、市の長期借入金445億円の67%を占めるに至っています。

## 国の借金を市が肩代わりし、返済も市が負担

臨時財債は、鈴鹿市の借金ではありません。国の借金のとりにあえずの立て替えであり、形を変えた地方交付税としての性格をもっています。「臨時」といいながら、2001年から17年も継続していて、しかも増え続けています。

この臨時財債の返済のためには、国から財源が措置されなければなりません。今は交付税の計算のもとになる「基準財政需要額」に算入されているだけで、実額としては返ってこず、返済の大部分（去年は21億円）を、実際は市で負担しているというのです。21億円もの市民のお金が、市民のためではなく国の借金の肩代わりに使われている！これが市財政を圧迫している最大の原因であり、その解決をつよく国に求めていかねばなりません。

ずいそう



## 日本政治ゆがめる親米保守

9月末の沖縄県知事選挙で、故翁長前知事の遺志をつぐ玉城デニー氏が圧勝したことは、今年一番の快挙であった。辺野古への新基地反対、普天間基地の撤去という県民の意思が、2代の知事によって証明されたのである。

しかし安倍首相は知事選直後に、これほどハッキリした県民の意思を無視し、米軍基地の建設を続けると明言した。いったい、どこの国の首相なのか？と多くの国民が呆れるほどのアメリカ追随ぶりである。

### いったいアベはどこの国の首相なのか？

その安倍首相は「戦後レジームからの脱却」をスローガンに登場し、「押しつけ憲法」の改定をめざしているが、その「戦後レジーム」とはなにか？それは明治憲法下の戦前の旧体制を否定した、新憲法の下での国民主権・平和と民主主義の社会体制であり、安倍氏はこれを「脱却」して再び明治憲法と教育勅語の時代に戻そうと言っているのである。

しかしその戦後レジームの日本の骨格を作ったのはアメリカであり、今も日米安保体制で日本の政治経済を支配しているのがアメリカである。安倍氏はなぜ、戦後レジームを押しつけた親玉・アメリカに物言えず、トランプ大統領の言いなりになっているのか？なぜ日本国民の負担で、米軍基地を作ったり、オスプレイなどムダな軍用機や武器を次々に買わされるのか？トランプが何を押しつけてきても、なぜ一度もNOと言えないのか？

### アメリカ言いなり状態は「奴隷」の思考だ

政治学者の白井聡氏は、このような日本の対米従属の状態を「奴隷」と呼ぶ。「日本は独立国ではなく、そうありたいという意思すら持っておらず、かつそのような現状を否認している」「奴隷である状態をこの上なく素晴らしいものと考え、自らが奴隷であることを否定する奴隷である。」「深刻な事態として指摘せねばならないのは、こうした卑しいメンタリティが『戦後の国体』の崩壊期と目すべき第2次安倍政権が長期化するなかで、疫病のように広がってきたことである。」と白井氏はつよく警告している。